



幅神楽保存会
会長 伊藤準悦さん(幅)

現在、幅神楽保存会は主に上長沢地内の5年生以上の男子児童を対象に長獅子を継承しています。会長の伊藤準悦さんには、人々に愛されてきた伝統のある幅太々神楽を誇りにし、子どもたちに成長してもらいたいという思いがあります。

幅神楽保存会が設立

約30年間、途絶えてしまった幅太々神楽でしたが、斎藤譲一さんや伊藤太一さんは、昭和63年、長沢小学校新校舎落成式での披露に備えるとともに、幅太々神楽の継承を目的とした「幅神楽保存会」を立ち上げました。七つ芸の内、斎藤さんが担っていた長獅子以外の芸は、残念ながら継承されず現在に至ります。また、幅太々神楽では音楽を奏でる下座取りがないため、現在、奉納に使用している音源は、平成6年に丸一神楽に奏でられたものを、猿羽根山体験実習館で録音したものだそうです。

伊藤 太一さん(幅)

— 幅太々神楽を伝承する際に大切にしていることは？

子どもの数が減っており、後継者の確保が難しいです。舞いを教えるときは、同じことを幾度となくやり直しをさせられることに耐えられるか、不安にもなりますが、少しずつ上手になる子どもたちの姿に元気づけられております。人々が幸せになれるよう、気持ちを入れて舞うことを指導しています。

— 伝統芸能とは？

幅太々神楽も含め伝統芸能は、途切れることなく人から人に伝えられなければなりません。教わる側も、優れた感性と記憶力がなければ、後世に伝わりません。これまで繋いできた先人たちには、尊敬の念を抱いています。



斎藤 譲一さん(幅)

— 地域の方にとって幅太々神楽とは？

テレビなどもない時代で、みんなとても楽しみにしていました。昭和30年ごろと63年の2度の再開時は、待ちに待った幅神楽と言われ、喜ばれたものです。

— どのように舞いを身に付けましたか？

当時の大夫から1ヵ月くらい、毎日習いました。大夫は厳しかったけれど、みんな練習を楽しみにしていましたよ。

— どのような思いで長獅子の舞いを？

華やかな舞台に立つことができますし、何より観客のみなさんを幸せにできたことがうれしかったです。



写真中央が斎藤さん。
代々受け継がれてきた
道具と「長持ち」。

<幅太々神楽の公演について>

ふながた若鮎まつり、芸能フェスティバル、最上地区民俗芸能フェスティバルなどで公演しています。歴史ある幅太々神楽をぜひご覧ください。

▼問い合わせ／

舟形町教育課社会教育係 ☎(32) 2 2 4 6

※幅神楽保存会の活動について



伊藤 大悟さん(幅)、阿部 陸稔さん(幅)

— 幅太々神楽は楽しい？

(伊藤さん) 楽しい。やってみると足の筋力を使い、足が痛くなることがよくありますが、上手にできるようになるとうれしいです。

— 未来の幅太々神楽は？

(伊藤さん) 今は小学生が2人だけど、覚える子が増えるとよい。みんなを幸せにできる芸能をずっと続けていきたいです。

— 大変なところは？

(阿部さん) 忠実に再現することと、腰をおとして演じることです。



ふながたの「お宝」。舟形町のもの、人、場所などをシリーズで紹介します。第9弾は「幅神楽保存会」です。

発掘!
ふながたのお宝

令和に舞う、幅太々神楽

幅太々神楽の
始まり、始まり

幅太々神楽は、長沢地区幅に伝わる伝統芸能です。150年以上の伝統があり、五穀豊穡、家内安全などを願う奉納されてきました。生きた獅子が動き回るような、前かぶりと後ろかぶりの息の合った二人踊り、邪を祓い、福を呼び込む一人踊りがあり、躍動感ある長獅子は観客の視線を釘付けにします。

幅太々神楽「七つ芸」

神楽とは、神前や、まわつた家々で祓いや祈祷などを行う神事で、特に獅子が頭を噛むような厄払いが印象的です。幅神楽保存会にうかがったところによると、幅太々神楽の起源は今から遡ること約150年前、当時の若者たちが博打などに興じる日々を過ごすため、地域の方々が心配し、若者たちが何か他のものに夢中になれるよう、幅地内で神楽を奉納していた丸一神楽(大石町)の一座に願い、教えていただいたそうです。そのため、幅太々神楽は丸一神楽と同じ構成だそうです。

太平洋戦争への召集と 高度経済成長期の出稼ぎ

昭和17年ごろになると、担い手たちは太平洋戦争へ召集され、幅太々神楽は一時中断されてしまいます。昭和30年ごろには、斎藤譲一さんなどの働きかけにより復活され、

元々は15歳〜20代の20人程で旧正月の2、3日に野、幅長尾、休場(新庄市)などの家々や、神社に奉納したそうです。また、長獅子だけでなく、これに続く道化舞、おかも、鳥刺し、阿呆舞、和唐内座頭舞の「七つ芸」があつた他、三味線、太鼓、笛、鐘を奏でる下座取りがいました。これらの芸能を受け継ぎ、次代へと繋いできたのが大夫と呼ばれる家系でした。

幅太々神楽の特徴

七つ芸(現在は長獅子のみ継承)

「米」の字を描くように舞う

「静」と「動」の舞い

幅太々神楽が上長沢地内や熊野神社、猿羽根山トンネルの起工式などで披露されたそうです。しかし、時代は高度経済成長期へと移り変わり、芸の担い手たちは出稼ぎに出たり、会社に勤めたり、次第に集まることが難しくなります。再開を喜ばれた幅太々神楽でしたが、わずか数年で解散することになりました。



幅神楽保存会(平成7年ごろ)
伊藤準悦さんと斎藤譲一さん